

**神奈川施保連**  
**ホームページ開設**  
 神奈川施保連では6月の理事会にて承認され、神奈川施保連ホームページを開設いたしました。アドレスは右記を参照ください。

# 神奈川施保連ニュース

発行人 岩本 邦雄 編集人 杉山 昌明  
 発行所 〒235-0021 横浜市磯子区岡村3-15-14  
 神奈川県知的障害者施設保護者会連合会  
 事務局 TEL&FAX 045-751-1010  
 URL: <http://w01.tp1.jp/~a368318200/>



## 全施連全国大会開催

**第二日(九月二十二日)**

全施連全国大会が千葉のホテルニユーオータ二幕張で九月十三日から十四日の二日間、開催されました。

参加者は北は北海道から南は沖縄から六百三十名を越えました。神奈川県からは地元千葉県に続いて二番目に多い、八十五名という大勢の参加者があり盛会でした。

開会行事では千葉県知事(代理)、日本福祉協会会長中原 強氏、全日本手をつなぐ育成会会長北原 守氏の挨拶がありました。

その後、鹿児島大学法科大学院教授の伊藤周平氏による「障害者総合福祉法の展望と入所施設のあり方」について約90分の基調講演がありました。

内容については後日報告いたします。



すが、その中で特に印象に残ったことは「障害者(少なくとも知的障害者)の福祉は、契約制度ではなく、市町村などの自治体の公的責任を担保した障がい者総合福祉法の制定が必要である」というお話しでした。その他、重度の知的障害者にとつては在宅ケアより施設ケアの方が適切な場合の方が多いので、「安心できる福祉施設」の整備が不可欠であるという意見で私たち親の考えと近いものがありました。



昼食休憩後、四名のシンポジストによる「知的障害者の高齢化対策」についてシンポジウムがありました。入所施設利用者は年々高齢化が進み、かつそれに伴って病弱化や健康上の問題が生じてきています。しかもこのような状況は、ますます深刻化するものと考えられます。長年支援に携わってきた施設長や

問題認識を持つ家族がそれぞれの立場から発表し、議論を通じて課題と解決の方向を明確にすることを目的としています。

シンポジストは「かながわ共同会前理事長」落合文雄氏、「千葉県しおさいホーム施設長」佐久間智氏、「東京多摩学園常務理事」山下正正氏、「福岡県知的障害者施設保護者



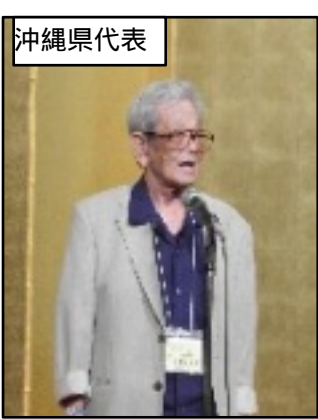
大分県(次回開催県)



会会長「八木トミエ氏でした。それぞれの立場からの意見発表があり「Tディネーター」の全施連岩本副会長によりシンポジウムが展開されました。内容については別紙で後日ご報告いたします。

18時30分から同会場で交流会が行われ、三百名を越す参加者で盛会でした。

沖縄からの参加者の挨拶、東日本大震災の被災地からの参加者の挨拶、次期開催地の大分県の挨拶、25名の参加者全員の紹介がありました。



沖縄県代表

第 日 (九月十四日)



九時から総会報告を全施連由岐会長からあり、活動方針、予算の説明がありました。

その中で注目すべき説明のなかに、現在推進会議で検討されている総合福祉法の中身が障がい者障害者自立支援法で、単なる看板の付け替えに終わってしまう恐れがある。全施連は諦めずにそんなことにならないように運動を進めていくという内容でした。

そのほかの活動方針の一つとして、一日目のシンポジウムの中でシンポジストの八木氏が述べていた意見にもありましたが、あるべき施設像のなかで、現在個室と言われているものは個室でなく単なる一人部屋と言うべきである。個室とはトイレ、風呂、キッチンなどが設備された部屋である。全施連の活動の中で全施連としてあるべき施設像を構築し発信していくということでした。

その後の九時四十分から自民党の衛藤征一参議院議員から、自分



の生い立ちにおける障害者との関わりを含めて障がい者制度改革推進会の動向などについて講演がありました。

講演後に「東日本大震災」で被害を受けた宮城県代表から体験報告と南全施連副会長から提言がありました。



障がい者の置かれている立場などについて改めて考えさせられました。

次に全施連の活動に関して意見



交換会があり会場から活発な意見や提言がありました。

最後に全施連岩本副会長から決



議文の提案があり全会一致で採択されました。

閉会行事で千葉県副会長から次回開催となる大分県代表の紹介があり、開催に対する決意表明が



あり散会となりました。

平成23年度全国大会決議(抜粋)

1. 入所施設存続の必要性を訴えるとともに、入所施設の 充実・改善を図る活動
2. 知的障害者がのぞむ暮らし方を選択できる仕組みを作る活動
3. 障害者自立支援法の廃止への取り組みを進める活動
4. 障害者自立支援法に替わる新たな法律は、全ての障害を持つ人の生涯を見据えた福祉の向上を目指す活動

全国知的障害者施設家族会連合会

全国大会に参加して

千葉県の全国大会が盛大に開催されたことを嬉しく思っている一人です。

全国の親たちのわが子を思う気持ちがひしひしと伝わってきました。

意見や要望を言えない知的障害者の福祉は親である私たちが多くに発言し行動しなければならぬと強く感じた大会でした。

記 杉山 昌明



2日目の神奈川県参加者